

『余地』

～相談業務を楽しむ方法 27～

<雨の日>

杉江 太朗

～雨の日～

雨の日に考えることがいくつか重なってこのテーマで書こうと思った。有名な心理士さんが、「雨の日の心理学」という本を出すらしいが、決してその本に感化されたわけではない。その本の存在を知る前に、このテーマで書こうと思っていた。とは言え、この原稿がアップされる頃には、上記の本が発売されているはずなので、その本を思い浮かべる方もいるかも知れない。先にこちらが雨をテーマにすることを思いついたと主張したところで、内容には天と地の差があるから、争いにもならないだろう。

日本で生活していると、雨の日は、日常とは違った生活が流れているように感じる。天気予報や雨の降り方にもよるだろうが、通勤手段、服装、靴の選び方、傘を持っていくかどうかなど晴れている日とは考えることが変わってくる。どこも同じだと思うが、屋根のある駐車場のスーパーは混みやすくなる。誰だって濡れるのは嫌なのである。

雨は、濡れるし、ジメジメするし、傘も増えるし、道も混むし、洗濯物も乾かない。

しかし雨の日だからこそできる援助があると思いこのテーマを選択した。この原稿を読んで、雨の日の過ごし方に小さな変化が生まれたら幸いである。

～雨の日の傘～

こんなことがあった。来るときは晴れていたのに、帰るタイミングで大雨に見舞われた車椅子を押す来所者がいた。車椅子には子どもが座っている。駐車場までは屋根がなく、このままでは濡れてしまう。しかし、雨がやむ気配はない。担当していた若い職員が見送ろうと入口付近に立っている。雨の予報でもなかったので、その職員も傘を持っていないようであった。来所者は、濡れるのを覚悟で車まで走ろうとしているタイミングで私が通りかかり、私は咄嗟にその職員に傘立ての奥の方の傘を使って、せめて子どもだけでも濡れないように傘をさすように伝えた。

傘立てには、所有者のわからない傘が溜まっていく傾向がある。置いた人間も忘れてしまい、いつの間にか職員の数以上の傘が溢れてしまう。そして一定の時

期が経つと捨てられてしまう。奥にあるいずれ捨てられる運命の傘を使ったとして、同じタイミングで元の所有者がその日に焼けた傘を使うことはないだろうし、バチが当たるようなこともないだろう。日に焼けた傘も、やっと傘という出番を得られたのである。自分のことを傘だと忘れていたかもしれない。

私の事務所には、2～3年毎に検査を目的に来所するという方もいる。来所自体は強制ではないが、やはり次の来所に繋がる対応を心がけたいと常に考えている。雨の強さによっては、傘をさしたところで濡れるという結果は変わらないかもしれない。しかし、傘をさすという行動があるかどうかで言えば、当然ある方が良いでしょう。「なぜ傘をさしているのに濡れたのか!」と怒る人はいないはずである。

私が雨の日に傘をさすのには、まず子どもや保護者が濡れないようにという前提があるが、それ以外にも相手からどう思われるのかという打算的な部分も含まれている。この仕事は、自分の行動が相手からどう思われているのか、他者から見たときにどのように映っているのかという視点も必要である。雨の日に傘をさすという行動は、誰にでもできるし、簡単で、当たり前と言えば当たり前で、責められる要素は少なく、比較的受け入れてもらいやすい。理想を言えば、誰のかわからない傘よりも自分の傘を利用出来るのか一番だが、日の目を浴びない傘の利用方法

としては間違っていないだろう。

～雨の日の痕跡～

こんなこともあった。中々出会えない家に訪問に行くことがあり、チャイムを押すが反応がなく、そこに人が住んでいるのかどうか分からない状態が続いていた。

ところがたまたま雨の日に訪問したときに、家の前に傘が置かれており、さらにその傘が濡れていた。さらに、アパートの廊下には足跡が…。ということは、間違いなくこの家には誰かが住んでおり、さらに私が訪問する直前に出入りをしていたことがわかったのである。名探偵のアニメでも、雪の日の足跡がその推理を左右する場面に出くわすことがないだろうか。雪の日の足跡よりも、雨の日の足跡の方が出会う確率は低いかもしれない。それでも訪問を続けていると、そうした場面に出くわすことがあるのである。もし雨の日だし、どうせ出会えないから今日の訪問はやめておこうとなれば、その発見はなかったはずである。結果的に、その日もチャイムを押して反応はなかったが、誰かが住んでいるかわかっただけでも大きな進歩である。

雨の日は、何かヒントを残す確率が高くなる。一方で、そのヒントが消えるのは早い。敢えて雨の日に訪問することが、新しい発見に繋がるかもしれない。

～雨の日の外回り～

前職で外回りをすることがあったが、統計などなく、感覚的なものでしかないが、晴れの日よりも雨の日の方が、営業の成績が良かったように感じている。

バイクで移動して、敢えて、屋根のないところにバイクをとめて、濡れた状態でチャイムを押す。自身を、ノルマを抱えた、雨の日でもバイクで営業をさせられている、大変な企業の一員だと見えるように意識して、率先して雨の日には出かけるようにしていた。濡れてでも営業をしなければだめな状況にいる自分を見せることで、同情を誘っていたのかもしれない。というか、敢えてその同情を誘うように意図して行動していた。今考えたら、ただの茶番なのであるが、それでも心配をしてくれる人もいたし、そのときにノルマに協力してくれた人もいた。あと、上司も濡れた状態で職場に戻ると、仮にノルマが達成できていなかったとしてもさすがに何も言ってこなかった。雨の日様々である。

～雨の日だからこそ～

雨の日は、日本に住んでいる限り、晴れの日よりも少ない。だからこそ、少し行動するだけで普段と違う結果を得られることがある。雨の日に傘をさすことは普通だが、急な雷雨の際に、さっと傘を出せる人は少ない。雨の日だからこそ、普段と違う変化に気づきやすくなる。雨の日だか

らこそ、普段と同じ行動をしていても、少しだけ頑張っているように見られる。こうしたことを意図的に、打算的に出来ることも対人援助のスキルではないだろうか。あくまでもさり気なく、あくまでも自然に、雨の日でもそのような行動ができるように目を配り続けたい。

～余談～

雨の日は、お気に入りのレインシューズ、カッパ、傘などでテンションを上げています。